

「武庫川がっこう」の目的と活動実績

田村博美・大塚俊光（武庫川がっこう）

はじめに

市民活動団体「武庫川がっこう」は設立3年半ほどの組織であるが、一般的な環境側面からの調査や分析などとはひと味違った活動を目的としている。活動範囲は武庫川を中心として周りの街や田園、集落、自然など幅広い。

活動理念と目的

当会の活動理念は「武庫川とまちは一体」であり、武庫川が良くなるとまちも良くなり、街が美しく魅力的になると武庫川の環境や景観もよくなることを目指している。

河川についてはややもすると自然科学的な側面からの活動が多い。当会では武庫川とまちの景観・風景、河川敷地の有効活用と地域をよく知るといった側面から活動している。河川は県管理、まちはそれぞれの市管理という縦割りによる制約も起因し、流域を見渡しても周りの土地利用と河川空間の一体的活用という視点からの地域づくりの事例は少ない。このような中で武庫川に関心を持ち、暮らしや教育の中で武庫川の河川空間を実感・活用し、災害時においても自助、共助の対応が出来る、しいては武庫川づくりの担い手育成やより魅力的な地域づくりが進むことを期待し活動している。

方法

武庫川に関心を持ってもらい幅広い活動に参画してもらう方法として、①守る②育てる③活かす④学ぶという4つの視点から活動を行っている。その拠点として武庫川下流域に数多く立地している福祉施設や福祉系学校、民間福祉施設群と河川空間の結びつけに着目し、河川敷地に「むこにゃん広場」を整備し活動拠点とした。広場や花畑整備は区市とアドプト制度による提携を行い実施している。

広場を利用し、市民や福祉施設入所者、学校などが楽しく交流できるイベント「武庫川のへそカーニバル」を2回/年実施、「こども川博士講座」を設け武庫川や流域の自然環境に親しみ体験できる活動、武庫川のカヌー大会、プロジェクトウェットによる環境やリスク回避体験なども実施している。

また、近くの小学校低学年を対象とした「環境学習支援」、市民対象の「武庫川探訪」「武庫川とまちの勉強会」も実施している。

2014年度には「第1回武庫川のええとコスケッチ作品」を募集し、203点の応募作品の中から沿川4市での展示、市民投票を経て入選作品を選定した。延べ1000名以上の市民が訪れ高い評価であった。

結果と考察

環境という概念を幅広く捉え、「地域の魅力づくり」といった視点から幅広い複合的活動も必須であると確信し、今後ともこのような地域づくりの視点から活動を継続したい。

「武庫川がっこう」の活動理念と実践



図1 当会の活動理念と実践

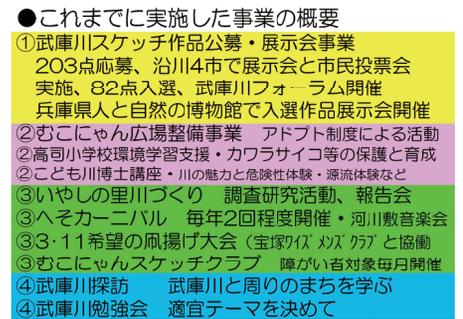


図2 実施してきた事業概要

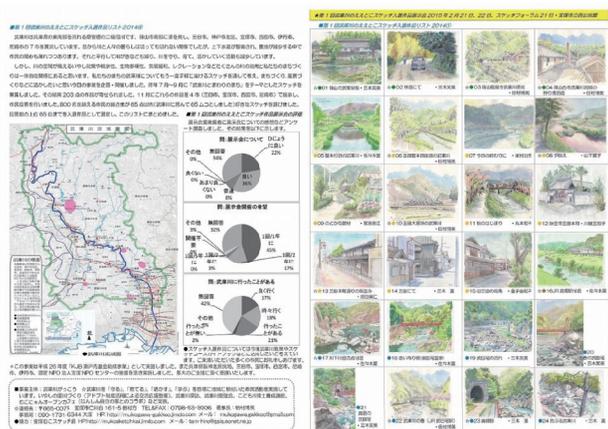


図3 武庫川スケッチ入選作品の一部